

令和5年度 学校評価一覧表

本年度の重点目標	<p>★よりよい授業づくり</p> <p>系統性のある教育課程の構築・障害の多様化、重度化への対応・キャリア教育・ESD活動・人権教育・食育の推進・現職研修、自主研修の充実・教師同士の連携・GIGAスクール構想の実現・教材データの共有</p> <p>★安全・安心な学校づくり</p> <p>マニュアルの精査・実効性のある訓練の実施・学校事故の未然防止・的確、迅速な対応・いじめの早期発見と対策・居場所づくり・人権への配慮・個人情報管理・多忙化解消</p> <p>★開かれた学校づくり</p> <p>保護者との協力体制の構築・関係機関との連携・地域の教育資源の活用・校内、校外のサポート体制づくり・効果的な情報発信</p>
----------	--

項目	部	重点目標	具体的方策	留意事項
よりよい授業づくり	小学部	目指す子ども像を実現するための自立活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の目標を意識した授業づくりに努める。 ・必要に応じて児童一人一人に向き合える時間をつくり指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を各教科に落とし込んでいくことができるように、目標及び手立ての学年内共有や学年を越えての実践の学び合いの場面を設定する。 ・時間における指導でやりきれない内容を補う時間を各学年裁量で設定していく。
よりよい授業づくり	中学部	自立活動における時間の指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートを用いた情報共有や意見交換等しながら年間指導計画を立案する。 ・自立課題学習において、生徒の取り組み状況を捉え、実態に即した課題開発を行う。 ・学年職員を中心に教員を配置し、生徒の課題の共有や活動内容の設定をしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動部と情報共有を行い、必要に応じて助言を求める。 ・生徒自ら課題をやり遂げられることを重視し、生徒の自己肯定感が高まるようにする。
よりよい授業づくり	高等部	将来の自立と社会参加を目指した高等部行事の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に実施する行事について、目標や内容、教育課程上の位置付けを明確にして実施する。 ・今年度の状況を踏まえて次年度の行事計画を作成する。 ・校内研究で取り扱う「年間行事計画の見直し」と進捗状況と絡めて情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程上の位置付けについて、学習指導要領の特別活動や各教科の目標や内容と照らし合わせる。 ・教育活動の充実と業務の多忙化とのバランスを常に意識する。
安全・安心な学校づくり	教頭	勤務時間の適正な管理。	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間と休憩時間のけじめをつけた勤務を心がけ、習慣づけていく。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。 ・時差勤務の一部改正に伴う、校内体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間外や休憩時間に業務を設定しないように、全職員で心がけていく。 ・行事等を含む学校業務のスリム化を、年間を通して検討・推進していく。 ・変更点を明確に示し、職員の働きやすさにつなげる。

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項
よりよい授業づくり	総務	確かな学習支援が提供できる効率的な体制の整備。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材庫にある共有の教材を管理しやすくするために、破損したものや使えない教材を処分したり、高いところまで物が置ける棚に変えたりする。 ・かごやコンテナ等の教材の入れ物と、棚に写真等を貼って整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に破損したものや使えなくなった教材を処分する日をつける。(全職員に依頼) ・令和4年度に作成したチェックシートを使って、定期的に保管状況を確認する。 ・整理方法について、全職員に周知する。
よりよい授業づくり	教務	児童生徒に合わせた日課表の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・日課検討委員会を立ち上げ、定期的に日課について検討する場をもつ。 ・必要に応じてアンケート等で意見を伺う。 ・日課とともに令和6年度の行事等についても検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の運営委員会で周知を図る。 ・検討委員会のメンバーは検討内容に応じて設定する。 ・スクールバスや給食等については、早々に検討を始める。
安全・安心な学校づくり	指導安全	防犯・防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな条件で避難訓練を実施する。 ・マニュアルの見直しと改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁の崩壊、けが等やパニックになって動けなくなった児童生徒への対応など、想定される状況を複数考えて実施する。 ・より良いマニュアルになるよう、様々な角度から検証していく。
安全・安心な学校づくり	指導安全	いじめの早期発見と丁寧な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対するアンケートの実施や、素早い対応について検討する。 ・本校基本方針の周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、いじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応する。適宜、スクールカウンセラーなどの関係者、関係機関とも連携する。 ・基本方針の周知徹底を実施することで、職員の意識を高め未然防止につなげる。

安全・安心な学校づくり	進路	産業現場等における実習をはじめとする各進路行事の手引きの周知	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の促進を図り、手引きを作成する。 ・小学部から高等部までの職員や保護者に対する周知や啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きを更新し、必要事項を精選する。 ・これまでの実績に合わせたニーズを反映する。 ・該当学年だけでなく幅広い職員へ周知の場を設定する。
開かれた学校づくり	支援	研修会の実施と理容美容支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修の期間に、外部講師を招いて研修会を計画する。 ・理容美容支援を実施し、地域の理容美容店の利用につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の内容や方法について検討する。 ・職員のニーズ等を伝えながら、外部講師との打ち合わせを行う。 ・理容美容組合と連携して行き、実施後に組合の方にも意見を伺う時間を設ける。 ・支援グッズや環境設定の工夫をする。 ・参加者で地域の店舗の利用につながった児童生徒がいるかどうかを確認し、今後の改善点に繋げる。
よりよい授業づくり	研修	校内研究をとおし、行事精選に伴う年間指導計画の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会と連携しながら、部ごとにみあいピック、フェスタの新たなあり方について検討する。 ・新たな行事計画をもとに、学年ごとに令和6年度以降の年間指導計画の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究担当者が各委員会で検討された内容を集約し、必要に応じて他の委員会や各部の担当者等との連絡、調整を行う。 ・学習指導内容表を活用しながら、年間指導計画の内容に偏りがないか確認する。
安全・安心な学校づくり	情報図書	個人情報の取り扱い方の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の個人情報の保護を確実に行う。 ・学校全体での個人情報の取り扱い方の見直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県のセキュリティポリシーの改訂に沿って、情報の取り扱い方の書類の様式を見直したり、職員の意識改革を行ったりする。 ・授業内外で各種情報端末を活用していく中で、情報機器の取り扱い方や、より安全な使い方を考え、適切に運用していく。
安全・安心な学校づくり	保健体育	学校事故の未然防止や的確・迅速な対応ができる保健管理の体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーに関するマニュアルや書類を見直し、改善する。 ・汚物処理グッズを各教室、特別教室に配置し、迅速に対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エビペンの保管場所がすぐに分かるように写真で表示し、対応マニュアルとセットで教室や昼食場所に掲示する。 ・飲食を伴う活動時においても職員によるチェックをする体制を整える。 ・誰でもすぐに対応できるようにグッズ入れの袋を統一する。
よりよい授業づくり	自立活動	確かな学習支援が提供できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初自立活動年間計画・年間指導計画について共通理解する。 ・教務部と連携し各部の実情にあった担当者間の連携について検討する ・職員のニーズに沿った研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に自立活動について職員会議などで周知し、随時、研修会の実施や担当者間の連携について呼びかけをしていく。 ・外部機関との連携を深め、専門性を高める機会を設ける。

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)

よりよい授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・45分授業の日課の定着を図るとともに、課題の検証をしながら、児童生徒の豊かな学校生活につなげる。 ・ICT危機を活用した教材の作成と活用、情報共有を推進する。
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を促進する。合わせて、けじめをつけた勤務設定を習慣づける。 ・合理的配慮を意識し、人権に配慮した児童生徒への指導や学習活動の展開に努める。 ・実行性の高い訓練の実施や、防災への意識を促進する。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各校務における横のつながりを意識するとともに、関係機関との連携を活かし、高い教育効果を得られるように努める。 ・学校紹介や見学などの地域からの要請に応じるとともに、障害のある児童生徒の社会生活への理解へとつなげる。